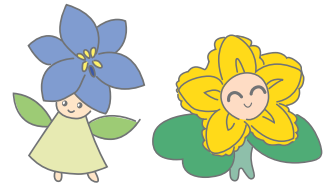


河北潟流域新聞



発行：NPO法人河北潟湖沼研究所 2021年3月

河北潟流域を楽しもう！

インスタ映え抜群！フォトジェニックスポット！

図解！河北潟流域 特徴を知ろう

こんなに違う！昔の河北潟

**河北潟流域を守るNPOとは
暮らしを豊かにするNPOと**

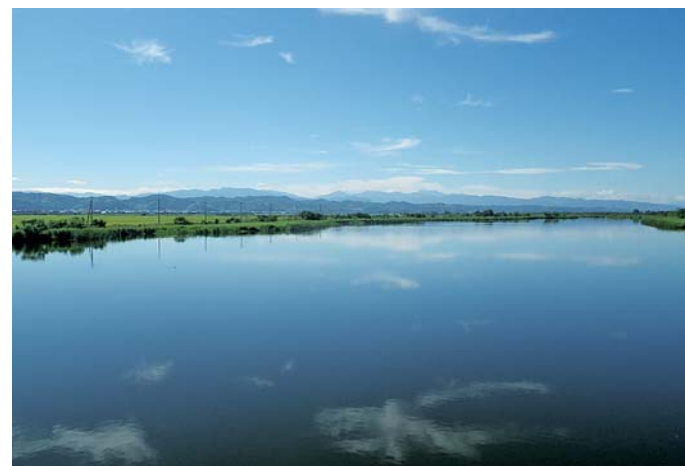
河北潟の水は、周辺の山谷から流れ出し、田畑、住宅地、商業地等様々な場所を通り河北潟に流れ込みます。河北潟周辺の生活や産業が、河北潟の水質や自然環境に大きな影響を及ぼします。流域全体で健全な水を生み出す取り組みや、水系を活かした自然環境保全の取り組み、防災の取り組み等ができれば、河北潟の環境改善につながるばかりでなく、流域全体を豊かで、住みやすい地域とすることができます。

河北潟ではむかし、ウナギを取って食べていました。舟を出して魚釣りをして晩御飯のおかずをとったり、泳いで遊んだりしていました。水は透き通り、清湖とよばれていました。水質が悪く、水辺に近寄ると危ない、そもそも水辺に近づくことが簡単にはできない現在とは、別の世界の出来事のようにです。河北潟は豊かな水産物の恵みがあり、楽しく遊べる憩いの場でした。そんな時から長い年月が経ち、河北潟の姿形は大きく変わり、今も少しずつ変化しています。でも形は変わっても河北潟は近くにあります。河北潟がまた豊かな恵みをもたらす場となり、楽しい場となつたらいいと思いませんか？

流域の皆様は、流域の事に関心をもってほしい、親しみをもちたい、そして皆様と共に豊かで楽しい河北潟流域を作りたい、この願いから、この河北潟流域新聞を作りました。よろしくお願ひします。



⑥7月の河北潟干拓地。広大な農地が広がります。



⑦8月、河北潟東部承水路、湖北大橋付近。



⑨内灘白帆台付近から河北潟干拓地方向に見える朝日。

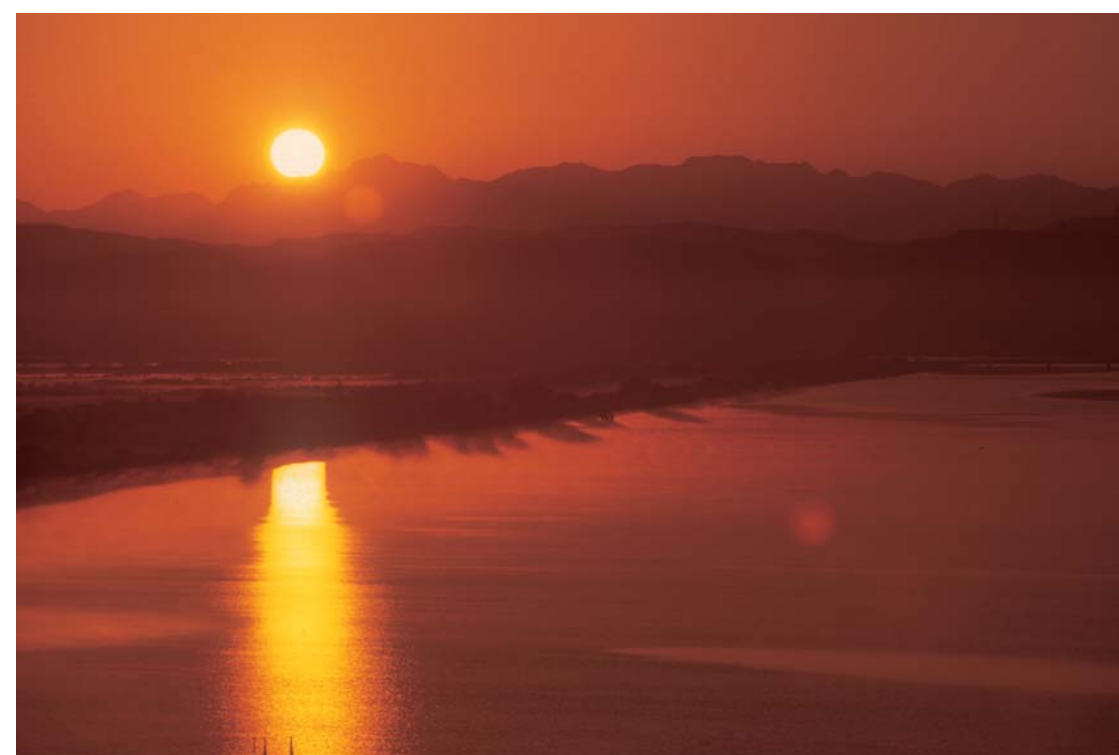


⑩夕焼けの柳瀬川つつみ公園の木々。

季節や時間、お天気次第で見え方も色々、
たくさん通ってお気に入りの入りを見つけよう！

インスタ映え抜群！

河北潟流域のフォトジェニックスポット！



①内灘大橋の横、内灘道の駅の辺りから見た朝焼け。この場所は河北潟が一望でき、お天気の良い日は湖面とともに白山連峰や立山連峰もきれいにすることができます。



③アサザビオトープのアサザの花。5月～10月頃見られます。



④こなん水辺公園のハスの花。例年7月下旬が見頃です。



②河北潟干拓地のメタセコイア並木。写真は5月のものですが、1年を通してきれいです。



⑤4月上旬、河北潟干拓地の湖岸沿いの桜並木。



⑩蓮湖渚公園から見た河北潟。湖面が近いです。

⑩田んぼで出会える生きものたち



クサガメ／春～秋に見られます。写真は春先に田んぼ脇の土水路で見つけた子ガメ。



ハラビロトンボ／湿地にいるトンボです。その名の通りお腹の幅が広いトンボです。夏にみられます。



チュウシャクシギ／渡り鳥で春の田んぼで見られます。細長くくちばしで田んぼでエサをとって食べています。



コハクチョウ／冬に水が溜まっている田んぼでよく見られます。田んぼの中で餌を食べたり休んだりしています。

図解！河北潟流域・その特徴を知ろう！ ～水でつながるいろいろな場所～

河北潟は石川県でいちばん大きな湖です。海のすぐ近くにあり、そこにはたくさんの川や水路が流れ込んでいます。宇ノ気川、能瀬川、津幡川、森下川、金腐川、大宮川、柳瀬川、柳橋川、血ノ川・・・その他たくさんの農業用水路が流れ込みます。内灘砂丘からは湧水が入ります。流出する大野川では、浅野川とも合流します。

河北潟に流れ込む川や水路の周辺で雨が降ると、その雨水は川や水路を通じて河北潟に集まります。雨水が集まってくる範囲が河北潟流域です。

2市2町にまたがる

河北潟流域は金沢市、かほく市、津幡町、内灘町の2市2町にまたがっています。

戸室山・医王山

金腐川上流部には戸室山、森下川上流部には医王山があります。古くは火山でした。急峻な地形で、田んぼがある場所は限られます。河北潟流域で一番高い所は医王山で、標高約900メートルほどです。

津幡・森本丘陵

河北潟に流入する河川の主な水源となっています。津幡町から金沢市にかけて続く津幡・森本丘陵は標高200～300メートルほどの低い山が続きます。なだらかな地形で、山の上の方まで田んぼが見られます。

山間地は過疎化

水源に近い山間地は、高齢化や過疎化が進む地域が多くあります。棚田もたくさんあり、美しい風景が見られますが、農業の担い手不足から、その保全が課題となっています。

沿岸は人口増

河北潟周辺の平地は、かつて田んぼだった場所に、住宅や商業施設が新しく作られ、人口が増えています。

田んぼが多い

河北潟周辺の低く平らな土地は田んぼが広がります。田んぼでエサを取ったり休んだりするシギやハクチョウ等大型の野鳥もたくさん見られます。でも最近では住宅や商業施設等に置き換わる場所も増えてきました。

水門・ポンプ

河北潟とつながる川や水路のほとんどは、水門で区切られています。農業用水の確保や、大雨の時の水害防止のために、ポンプで排水されたり揚水されたりして、水位が調整されています。農地はもちろん、周辺の住宅地にとっても、安全上とても大事な施設です。

内灘砂丘

金沢市から内灘町、かほく市とつながる日本でも3番目に大きな砂丘です。内灘砂丘には湧水がいくつもあり、その一部は河北潟に流れ込んでいます。

河北潟湖岸のヨシ原

河北潟の水辺にはヨシ原が広がります。夏にツバメの集団ねぐらとなります。チュウヒやオオシキリ等の野鳥や、様々な魚の大事な生息環境ですが、年々減少傾向にあります。

野鳥の宝庫

広い湖面、田んぼ、畑、ヨシ原等野鳥が住みやすい環境が広がる河北潟周辺、実は全国でも有名な野鳥の宝庫です。

市街地

河北潟は、金沢駅から車で30分ほどの場所で、市街地からとても近く、市街地を流れる川も河北潟に入ります。

大野川と金沢港

大野川は河北潟から流れ出る唯一の川で、河北潟との間は金沢港防潮水門で区切られています。金沢港の整備に伴い、河口が拡張され、水深も深くなりました。

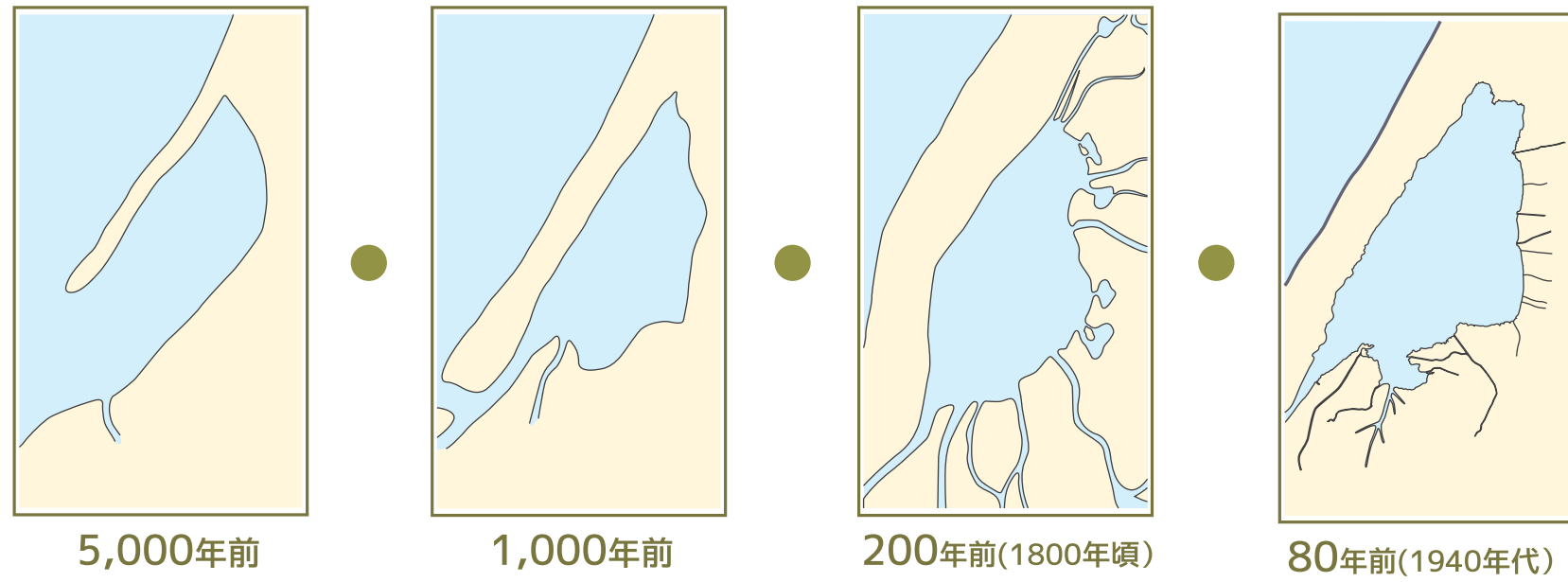
河北潟放水路

干拓事業により、内灘砂丘を削って作られました。通常は防潮水門で閉じられています。河北潟の水位が海拔60cmを超えて、かつ潮位より20cm高い場合だけ水門が開かれて、河北潟から放水されます。



日本海

河北潟ってどうやってできたの？



昔の小規模な干拓は、潟縁の浅いところから、徐々におこなわれ、比較的深いところは沼地として近年まで残されていました。これを「フナ(不湖)」といいます。その名残の湿地は昭和初期までみられましたが、土木技術の発展に伴って、こうした湿地もだんだんと水田に変わっていきました。

このように河北潟は常に形を変え、徐々に狭くなっていきましたが、そのスピードはゆるやかでした。排水のために張り巡らされた水路や水はけの悪い湿地、屋根葺きに使われたヨシ原、ハサ木として利用されたハンノキなど、昔ながらの水辺の多様な環境要素が混在していました。

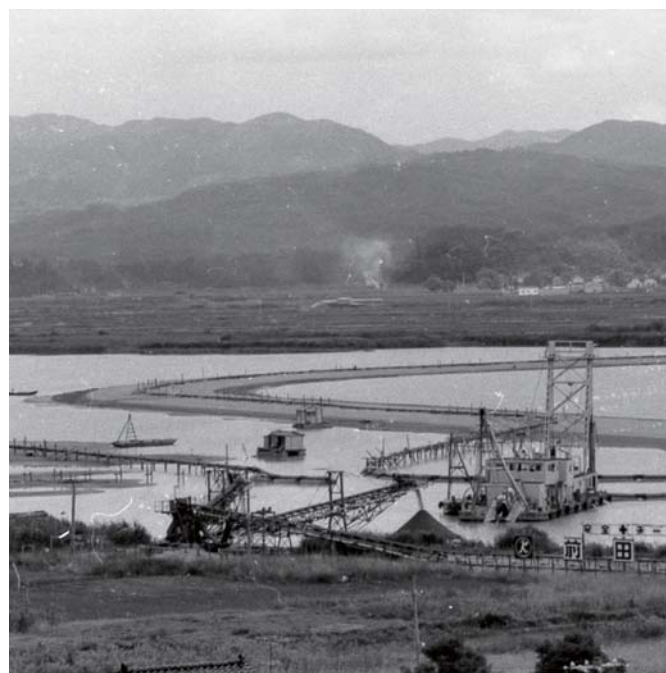
形が変わる河北潟

干拓(かんたく)は、水中に堤防を作り、堤防内の水を抜いて、干上らせる工事です。「埋め立て」は、土砂等を入れて水面より高い位置に新たに土地を作っていきますが、干拓の場合は水面より低い位置に土地ができます。河北潟は一九六三年からの国営干拓事業で湖面の約三分の二が干拓されました。現在の河北潟干拓地の平均海拔はマイナス二メートルほどです。

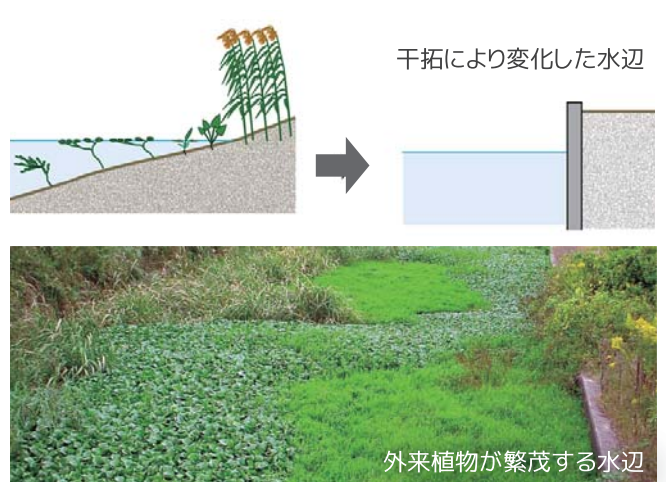
河北潟の水深は平均で二メートルほどしかなく、全体が浅いお盆のような湖です。そのため国営干拓事業より前から、河北潟の湖畔に住む人たちは、水田を増やすために小規模な干拓を繰り返してきました。

大規模干拓で一気に変化

国営干拓事業は、それまでの干拓とは異なり河北潟の姿を一変させました。22.5km² あった湖面のうち 13.6km² が干拓されました。周辺の耕地 32.8km² の排水改良を行うことも事業の目的でしたが、この事業により河北潟周辺の人たちは、広大な農地を手に入れることができ、大規模農業への道が拓かれました。とくに周辺部の水田は、それまでの泥田から機械化がしやすい乾田に変わり、それまでの農作業の負担が格段に減りました。一方、干拓地は事業の途中から始まった減反政策により、土地を手に入れたものの水田としては使えなくなり、慣れない畑作に苦勞することとなりました。また、償還金という借金を抱えることになり、機械化の推進とともに、金のかかる農業への変化でもありました。可能性とリスクを伴う河北潟の農業の挑戦は、現在も続いています。



干拓事業 1969年 撮影：杉本 清さん (津幡町教育委員会提供)



干拓後の変化

干拓やその後のほ場整備、宅地化の進行により自然環境への問題が生じています。潟の淡水化は深刻な富栄養化をもたらしました。汽水の生態系を構成する生物群集がいなくなったことが、そのひとつの原因です。

湖岸に沿って堤防がつけられたため、徐々に深くなる水辺が消失し、水生植物の多様性やそれを生息場所とする水生動物が減少しました。水草の種子の供給や、魚などの産卵場所、水鳥の餌場などが失われました。

ポンプによる排水改良事業により川の連続性が断たれ、潟と周辺水域との生態系ネットワークが劣化しました。一方で、濁ってよんだ水が好きな外来植物のチクゴスズメノヒエの繁茂が目立つようになってきました。

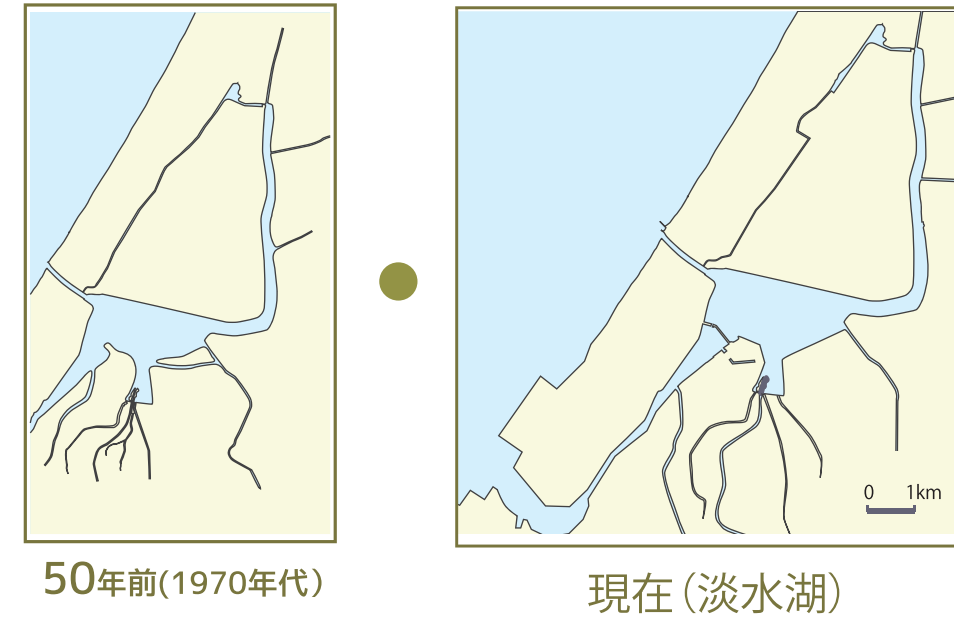
そのため、豊かな水辺を取り戻すための取り組みが行われています。

むかしの河北潟をみてみよう

海跡湖・もとは海

河北潟は海跡湖です。海跡湖は、砂州や砂嘴、砂丘など、砂が堆積して海から切り離されてきた湖です。

河北潟は今から五千年前は、日本海の一部でした。内灘砂丘がだんだんと北から延びてきて、海から切り離され「潟」となりました。そのため、長い間、海水と淡水が混じる汽水湖でした。



水郷・水路を舟で行き来していた

むかしの河北潟周辺には水路が張り巡らされていました。そこは交通手段でもある舟が行き交い、かや葺きの舟小屋が並ぶ水郷地帯の風景がありました。田んぼにつながる水路では、収穫した稲を舟にのせて運ぶ風景も見られました。また、かつて浅野川は河北潟に流れ込んでいたので、河北潟周辺の集落からは、潟を経由して、浅野川から金沢市まで、舟で行くこともできました。



収穫期の風景 1956年 撮影：杉本 清さん (津幡町教育委員会提供)

豊かな食文化があった汽水湖時代

河北潟が汽水湖だった頃、海水魚から淡水魚、ヤマトシジミ等の水産物が豊富に獲れました。スズキやウナギ等のほかフナもよく食べられていて、甘露煮や刺身、みそ汁、ぶつ切りにしたフナを炊いた「そろばん」などさまざまに料理されていました。

干拓以前に子ども時代を過ごした人たちは一様に、河北潟のフナはおいしかったといいます。モクズガニやスッポン等も「ごちそう」でした。テナガエビ等も食べられていました。田んぼで獲れるマルチタニシやドジョウも食材として利用されていました。河北潟の恵みを受けた豊かな食文化がありました。モクズガニは現在でも珍味として食べられることがあります。フナは今でも河北潟に比較的多く生息していますが、食べられることはほとんどなくなりました。



フナの刺身

逆水門のなごり

河北潟と日本海をつなぐ大野川の中程、金沢市栗崎町には、かつて河北潟に塩水が入らないようにする防潮水門がありました。「逆水門」と呼ばれるこの水門は潮汐の力で自動で開閉する木製の水門でした。

潮が満ちて川が逆流すると水門が閉じてしまうため、水門守り2名が二十四時間体制で、船が通る度に水門を人力で開けていたそうです。今は上流の新しい防潮水門に置き換わりましたが、その名残は今でも残っています。金沢港が作られた時に、このさらに上流に金沢港防潮水門が作られました。



今も残る逆水門の跡



モクズガニ



気持ちいいね

第27回 2021年・令和3年
河北潟クリーン作戦

4月18日(日)
9:00～10:00

主催/河北潟クリーン作戦実行委員会
構成団体/大浦牧下町会連合会、河北潟沿岸土地改良区、河北潟干拓
土地改良区、河北潟自然再生協議会、河北潟ポードクラブ、アリアーラ
ンズ、かほく市勤労者協議会、グリーンアース農地・水・環境保全協議
会、湖南地区町会連合会、津幡の水辺を守る会、北陸ランカースナイパーズ、
NPO法人河北潟湖沼研究所

協力/河北潟環境対策期成同盟会(金沢市、かほく市、津幡町、内灘町)、河北潟水質浄化連絡協議会
後援/石川県
事務局/NPO法人河北潟湖沼研究所 〒929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9 Tel.076-288-5803 Fax.076-255-6941



2021年河北潟クリーン作戦のチラシ。2021年は4月18日に実施。

活動の発端は、森の都愛鳥会等が1984年から自主的に行っていた清掃活動です。その後、北陸ランカースナイパーズ等のバス釣り団体等を加え自主的に活動が継続され、1995年より「河北潟クリーン作戦」が開始されました。現在は地域で活動する団体が集まり実行委員会を組織し、河北潟湖沼研究所が事務局となり、河北潟環境対策期成同盟会、河北潟水質浄化協議会の協力、企業協賛等を得て実施しています。

4月実施の理由
河北潟の水辺でゴミ拾いに適した季節というのは、一年のうちこそ長くはななく、ちょうど4月頃です。これより後から秋にかけては、水辺に草が生い茂ります。そうするとゴミが見つけにくくなり、また、ほとんどが垂直に護岸された河北潟の水辺では、水際が草で見えにくくなる。水中に転落してケガをする危険がとて高くなります。冬になると草は枯れますが、今度は雪で覆い隠される日も多くなります。その他協力団体や行政等の都合も考えると、4月が実施に適した時期で、近年は毎年4月に実施しています。

河北潟クリーン作戦

近付くと見えるモノ

遠くから眺めるときれいな景色がたくさんある河北潟流域ですが、近付くと違ったものが見えてきます。水辺に行くと、魚や野鳥等生きものにも出会え、いろいろな植物も見られます。しかし同時に、ゴミもたくさん見えてきます。たくさん川や水路が集まる河北潟では、水の流れに沿って、ゴミも集まってくる傾向があります。

一九九〇年代までの河北潟はゴミがとて多い状況でした。そのような状況をなんとかしようと、ゴミ拾い活動が各団体で行われるようになり、一九九五年から河北潟クリーン作戦が始まりました。ゴミのない水辺を実現しようと、毎年七百名ほどが参加し、ゴミ拾いをします。活動を継続している効果で、ゴミの量は減ってきています。最初は粗大ゴミのような大型のゴミが多かったのですが、近年は小さなプラスチックが目立ちます。ゴミは、意図してわざと捨てたのだから、というものから、風で飛ばされて流れ着いたのかなというもの、落としてしまった泣く泣くあきらめたのかな、というようなものまで様々なゴミがあります。

こんなモノが落ちています



白く点々と見えるのは全部ゴミ→



ペットボトル、空き缶
数では一番多く、とくにペットボトルは大量に落ちています。
プラゴミ、発泡スチロール
食品、お弁当の容器、バケツ、鉢等が多く、砕けて小さくなっています。

<そのほかこんなモノが落ちています>使いかけの食器用洗剤/使いかけのお好み焼き用ソース/ライター/未開封の缶ビール/賞味期限が10年前の未開封の食用油/中身が少し残っている整髪料やシェービングクリームの空き缶/電球/蛍光灯/アルミトレイ/壊れた三角コーン/スコップの先だけ/手箕(てみ)/バット/タイヤ/ヘルメット/サンダル/飲料輸送用コンテナ/ボール

河北潟流域情報ウェブサイトできました!



河北潟流域のイベントや活動団体の情報を集めたウェブサイトを開発しました。流域全体で環境保全活動が進捗し、流域内で交流が進むことを目指しています。下記URLまたはQRコードよりご覧ください。

河北潟流域へかけよう
<http://www.kli.jpn.org>



掲載団体も募集中!

流域内で活動している掲載団体も募集しています。掲載団体は、団体紹介ページを掲載でき、またサイトにイベントや活動のお知らせを投稿することができます。詳しくは河北潟湖沼研究所までお問い合わせください。

メール kr-info@kli.jpn.org

